

「一枚ポートフォリオ」の成果と課題

授業のグランドデザイン

「一枚ポートフォリオ」を活用していくと、1単位時間の授業において、どんな方法で、どのような力を育てるのかを明確に意識しなければならないという必要に迫られてきます。「一枚ポートフォリオ」を作成することで、育てたい資質・能力、指導計画、評価計画が明確になります。

また、教師がより深い教材研究を行い、授業を吟味するようになります。さらに、「一枚ポートフォリオ」の評価結果を指導に生かすことができます。

実践を通して、「一枚ポートフォリオ」は、授業のグランドデザインにもなり得ることが明らかになりました

段階を踏んだ指導の蓄積

読解力や表現力を育成するには、発問を絞り、一つのことをじっくりと考え、読み取りと書く、話す、聞くとを関連させた指導を段階を踏んで蓄積していくことが効果的であることがわかりました。自分の考えの深まりを実感させ、自分の意見を述べたり、書いたりする機会の保障と充実が重要です。

国語科における有効性

小説などの文学的文章における読みの深まりは、生徒にとっては自覚しにくいものです。しかし、作品を読んで考えたことを比較させることで、読みの深まりが実感できることがわかりました。この点で、国語は、一枚ポートフォリオの長所を十分に生かせる教科の一つと言えることも明らかになりました。

客観的な評価

必ずしも客観的な評価にならない場合があるなどのポートフォリオ評価の短所を補うために、評価規準の検討が必要です。生徒のどのような記述内容から思考の深まりを見取るのか、学習指導要領の指導事項に対応させ、言語活動との関連から適切な評価規準を設定しなければなりません。

書く時間の確保

一枚ポートフォリオを活用し、生徒の読みが深まっていけばいくほど、記入の時間が長くなり、授業時間内で書く時間を確保するのが難しくなるというジレンマが生じます。生徒の活動時間を保障するために、さらに指導内容を絞り込む必要があります。

読み取ったという実感

今までの読解学習では、自分がどのくらい読み取ることができたのか、自分に読解力がついたのかなどの実感をもつことができないままでした。その一方で、授業者の方は、学習課題はどうだったのか、発問がどうしたなどの授業検討を行っていました。

一枚ポートフォリオにより、生徒が自分の読み取りを自覚し、自分に力が付いたことを実感できるようになりました。それが一番の成果と言えます。生徒は力が付けば付くほど、長い文章を書くようになります。そこには、鉛筆の先から煙が出るほどの勢いで書く生徒の姿があります。